



＜学校教育目標＞ 「 創り、つなぐ 」 ～ 夢・絆・伝統 ～

☀ 諸富中に文化の花が開きます ☀

来たる11月1日(金)に諸富中学校文化発表会、合唱コンクールを開きます。今、生徒たちは、ステージ発表や展示発表に向けて各学年で練習・製作を頑張っています。よりよいものを創りあげるには、関わる人たち全員の協



力がが必要です。先生たちに頼りすぎず、自分たちで考えて練習や行動ができるようになってほしいと思います。なかなかうまくいかないことを、一つ一つ知恵を出し合い議論しながら着地点を見つけ、文化を創造してほしいと期待しています。やらされる文化発表会・合唱コンクールならば無理して続けなくてもよいと思います。貴重な体験の場です。仲間との絆をつくる、文化を創る、明日をつくる・・・そんな日々の集大成、11月1日(金)がとても楽しみです！

保護者の皆さまのご来場
お待ちしております。

☀ 三重の獅子舞…今年も伝統を受け継ぎます ☀

今年も1年生は、諸富町無形文化財保存会の皆様のご指導を受け、7月から三重の獅子舞を練習しています。文化発表会で披露します。だんだんと上達し、切れのある獅子舞、美しい音色の笛、しっかりとリズムを刻む太鼓など、見応えのあるものになってきています。一番体力的にきついのは、獅子の尻尾。交替なしですずっと中腰で舞います。目立たないけれどとても重要な役割を果たしている久保さん、船津さんへエールを送ります！





秋の夜長…読書のすすめ:保護者編



先日、待ち合わせの時間よりかなり早く佐賀駅に着いたので、本屋さんをぶらりとしていたら、2冊の本が目にとまりました。その中の1冊は「親」

子どもの人格を否定する言葉は「しつけ」にならない

体罰の項でも述べましたが、しつけとマルトリートメントは違います。

しつけとは、子どもの行動を正し、生きていくうえで必要なスキルやマナーを身につけさせることです。

子どもが他人に向かって物を投げつけたとしたら、「相手を傷つけることになるから、そういうことはしてはいけない」と、道理を教えるのがしつけです。「人に物を投げるなんて、お前はクズだ」、「だからあんたはダメなのよ」などと言うのは、決してしつけではありません。

罪を憎んで、人を憎まず――。

正すべきはその行動自体であって、成長段階にある子どもの人間性ではありません。人格を否定したところで、子どもは決して「人に物を投げつけてはいけない」という教訓を学びはしません。代わりに、「自分はだめな人間なのだ」という強いメッセージを受け取り、それが自己肯定感の低下につながります。何をするにも自信がもてなくなるばかりか、人の顔を始終うかがい、その場のぎの嘘や出まかせを、頻繁に口にするようになるのです。

子どもにとって、親の評価というのは絶対です。みなさんも子どものころはそうだった

を「教師」に読み替えると、とても勉強になると思って買った本です。その中の一部を転載します。私は、ハツとすることをたくさん見つけました。

友田朋美著「子どもの脳を傷つける親たち」ZENON出版新書

のではないのでしょうか。成長して社会を知るようになれば、「大人だって間違えることはある。いつだって正しいわけじゃない」と、比較的冷静に受け止められるようになりませんが、それでも親に言動を打ち消されるといことは、何歳になってもこたえるものです。小さいうちはなおさらです。

幼い子どもにとって親から否定されるということは、全世界から否定されるのと同じです。たとえその場では口ごたえをしたり、聞いていないような素ぶりを見せても、子どもはちゃんと聞いています。そして、こころも身体もショックを受け、傷つくのです。

親のほうとはいえば、子どもから望ましい反応が得られないと、ますます冷静さを失い、子の状況など目に入らず、さらにきつい暴言を吐いてしまうこともあります。

いつしか、とげとげしい物言いが当たり前のようになってしまう家庭もあります。暴言の一つ一つは小さな毒かもしれませんが、感受性が強く、柔らかな子どもの脳には、ボディーブローのように、ダメージが少しずつ積み重なっていきます。

毎日の生活のなかで習慣化してしまうと、当の本人はなかなか気づかないものです。一度、自身の子育てを振り返り、ふだん子どもに対して使っている言葉、口調を見直してみ

てください。最近、少しくつくなっているかもしれない――そう感じたら、今日から軌道修正をしていきましょう。そして、その反省の気持ちをぜひ言葉にして伝えましょう。子どもは許すことにおいて、天才です。

※ この著書では、大人の意図にかかわらず子どもを傷ける行為を、マルトリートメント(不適切な養育)と定義しています。